



Title	現代韓国語動詞のアспект
Author(s)	高, 正道
Citation	待兼山論叢. 日本学篇. 1986, 20, p. 39-55
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56449
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

現代韓国語動詞のアスペクト

高 正 道

まえがき

この論で私は現代韓国語のアスペクトの基本的な意味をしらべた。

アスペクトの研究は、ヨーロッパ、アメリカなど世界の色々な言語学者がすすめているが、私は方法論として日本語に関する奥田靖雄の論⁽¹⁾に従った。

奥田論の大原則は次のようである。

- 日本語のアスペクトは～スルの形（完成相）と～シテイルの形（継続相）の対立と統一にみられる形態論的なカテゴリー⁽²⁾である。
- 形の対立をもっていない動詞（ある、いる、そばえている）、あるいは、形の対立をもっている形式の上だけで、意味はまったく同じである動詞はアスペクトを欠いている。
- アスペクトをもっている動詞の完成相の基本的な意味はひとまとまりの動作をさしだすことであり、継続相は継続の中にある動作をさしだすことである。

韓国語の動詞のアスペクトに関する研究は色々な研究者によって行われているが、(1)形態素主義（例えば～～어있－ öitt- の研究）、(2)対立する形と切り離して孤立的に一つの形をしらべる研究、(3)形とは別に意味のわくに形を列挙した意味論主義など、いずれもシステムアプローチがないと言わざるを得ない、つまり、断片的なところで、事実はかなり明らかになっているが、その事実がアスペクトの体系の中でどのような位置をしめて

いるか、明確にされていない。

ここでは、今までの韓国語の研究者の研究業績に基づいて、また奥田のアスペクト論に従って、新たに分析を試みた。

第一節 韓国語の動詞のアスペクト

韓国語動詞のアスペクトの形は ~한다 handa とする基本的な形のほかに、~하고 있다 hago-itta と ~해 있다 hae-itta がある。この三つのアスペクト的な形に名前を与えておく。この命名は、今後の分析によってもっと適切なものにあらためられる暫定的な仮りのものである。

~한다 handa——単純相

~하고 있다 hago-itta——持続相

~해 있다 hae-itta——結果相

この三つの形は、すべての動詞に備わっているのではない。その動詞がどの形を取ることが出来るかによって、すなわち、その動詞の語义的な意味におけるカテゴリカルな意味によって、次のような三つのタイプに分かれる。

- 1 ~한다 handa と ~하고 있다 hago-itta しかもたないもの(해 있다 hae-itta をもたないもの)。
- 2 ~한다 handa と ~해 있다 hae-itta をもつもの。
- 3 ~한다 handa しかもたないもの。

1のグループに入る動詞を、一応、動き動詞と呼ぶ。

2のグループに入る動詞を、一応、変化動詞と呼ぶ。この類の動詞の中には ~하고 있다 hago-itta をもつ動詞も、もたない動詞も入っている。このことについては第二節の動詞の分類でくわしく述べる。

3のグループは、基本的な意味⁽⁸⁾におけるアスペクトの面で、形の対立をもっていないのでアスペクトを持たない動詞と認める。

アスペクトはテンスとからみあって、終止形叙述法のモードにおいて次

の図表の通り六つの形に分かれる。韓国語のテンスとしては通常、現在形、過去形、未来形が認められている。しかし、いわゆる未来形（～하겠다 hagetta）は推量・意志のムードの形と認められる可能性があり、ここではテンスからはずした。しかし問題はなお残っている。

(図1)

テンス アスペクト	現在未来形	過去形
単純相	～한 다 (~handa)	～했 다 (~haetta)
持続相	～하고 있다 (~hago-itta)	～하고 있었다 (~hago-issötta)
結果相	～해 있다 (~hae-itta)	～해 있었다 (~hae-issötta)

第二節 動詞の分類

第一節で述べたように、アスペクトの観点から、韓国語の動詞は、次のように分類される。

1 ~한다 handa と ~하고 있다 ~hago-itta しか持たないタイプ (動き動詞)

これは主体の動き・動作を表す動詞で三つのタイプに小分けされる。

- 1) 主体の動きを表す自動詞 (動き自動詞)
 - 2) 主体が客体に働きかける他動詞 (動き他動詞)
 - 3) 主体が客体に働きかけたり、主体自身が動いたりして客体と一定の関係に入り、その関係を維持する他動詞 (関係維持動詞)
- 1) 動き自動詞の例: 걷다 (歩く)、공부하다 (勉強する)、날다 (飛ぶ)、놀다 (遊ぶ)、노래하다 (歌う)、다니다 (通う)、다투다 (言い争う、争う)、대답하다 (答える)、떨리다 (震える)、법석대다 (騒ぐ)、빛나다 (輝く)、서성대다 (ぶらつく)、설겅이하다 (あとかたづけをす)

る)、앓다 (病む)、울다 (泣く)、웃다 (笑う)、헤엄치다 (泳ぐ) など。

- 2) 動き他動詞の例：관찰하다 (観察する)、기다리다 (待つ)、보다 (見る)、다루다 (扱う)、두드리다 (打つ)、문지르다 (こする)、미워하다 (にくむ)、바라보다 (ながめる)、세다 (数える)、쏘아보다 (にらむ)、(종을) 울리다 [(鍾を)鳴らす]、재다 (計る)、흔들다 (ゆすぶる)、계속하다 (続ける)、핥다 (舐める)、팔다 (売る)、꾸짖다 (せめたてる)、긁다 (搔く)、누르다 (押す)、씹다 (かむ)、값아먹다 (齧じる)、굽다 (焼く)、삶다 (ゆでる)、말리다 (乾す)、만들다 (造る)、밀쳐내다 (押し退ける)、청소하다 (掃除をする)、실다 (積み込む)、씻다 (洗う)、자르다 (切る)、준비하다 (整える)、찌르다 (突き刺す)、면도질하다 (剃る)、짜부러뜨리다 (つぶす) など。

3) 関係維持動詞の例：

A) 身につけ動詞、끼다 (はめる)、바꿔입다 (着替える)、신다 (履く)、쓰다 (かぶる)、입다 (着る)、차다 (はめる)、걸치다 (掛ける)、달다 (つける) など。

B) 体の一部を表す対格の名詞とくみあわさって主体の状態の変化を表す動詞、숙이다 [(手を) 下げる]、(손을) 내밀다 [(手を) だす]、(손을) 내리다 [(手を) おろす]、늘어뜨리다 [(くびを) 延す]、(눈을) 감다 [(目を) とじる]、(무릎을) 꿇다 [(膝を) 突く]、빼다 (延す)、(손을) 엮다 [(手を) のせる]、など。

C) その他、들러싸다 (とりかこむ)、(문을) 열다 [(戸を) あける]、닫다 (とじる)、가리다 (覆う) など。

この動き動詞は、すでにのべたように ~한다 handa のほかに ~하고 있다 hago-itta しか持たない。つまり ~해있 다 hae-itta を持たない動詞で、この中1)の動き自動詞と2)の動き他動詞は、持続相 ~하고 있다 hago-itta を取って、主体の動作の持続中を表す (三節の例文 18)、19) 参

照)。これに対し、3)の関係維持動詞は、持続相 ~하고 있다 *hago-itta* を取って二つの意味を表すことが出来る。

その一つは主体が客体と一定の関係に入るために、客体に働きかけたり、主体が自ら動いたりする過程を表す表現である。

◦ 그는 천천히 모자를 쓰고 있었다.

彼はゆっくり帽子をかぶりつつあった。

もう一つは、主体が客体と一定の関係に入った後、それを維持している局面も表す表現である。

◦ 그는 빨간 모자를 쓰고 있었다.

彼は赤い帽子をかぶっていた。

この二つ意味のいずれを実現するかは場面・文脈によってきまるが、ともに持続である点では同じである。

図1



2 ~한다 *handa*、~해 있다 *hae-itta* を持つタイプ (変化動詞)

これは基本的には、主体の変化を表す自動詞であり、動き他動詞の受身形 (あるいは、対応する自動詞) もこのタイプである。この変化動詞は次のように四つに下位区分される。

- 1) 位置変化自動詞, 가다 (行く), 오다 (来る), 돌아가다 (帰る), 돌아오다 (帰る), 들어가다 (入る), 물러가다 (下る), 도착하다 (到着する) など。
- 2) 姿勢変化自動詞, 서다 (立つ), 앉다 (坐る), 눕다 (よこたわる), 일어서다 (立ち上がる), 일어나다 (起きる), 걸터앉다 (腰掛ける) な

ど。

- 3) 段階的に変化が行われる自動詞、굳다 (固まる)、개다 (晴れる)、녹다 (溶ける)、마르다 (乾く)、변하다 (変る)、붙다 (くっつく)、시들다 (枯れる)、썩다 (腐る)、젖다 (濡れる)、식다 (冷める) など。
- 4) 動きに随伴して変化が行われる自動詞、남다 (残る)、비다 (空く)、탈락하다 (脱落する)、명중하다 (命中する) など。

この変化動詞は結果相 ~해 있다 hae-itta の形を取って、主体の変化の結果を表す。この変化動詞は、大体、主体の変化にむかっていく過程を ~하고 있다 hago-itta の形で表すことが出来るが、それが出来ない動詞もある。私が用例として集めた資料の範囲では、この変化動詞の数が限られているので断定は下せないが、4)のグループは、持続相で主体の変化にむかっていく過程を表すことが出来ないと思う。4)のグループの動詞に共通する特徴は、ほかの動作が前提になって、その結果、問題になっている変化が附随的に行なわれる場合、その変化をとりたてて表す動作とすることが出来るかと思う。それ以外の1)、2)、3)類の動詞は、その動作が瞬間的になりたっても 도착하다 (到着する)、(例文29参照)、その変化にむかう予備動作があるので、それを ~하고 있다 hago-itta の形で表すことが出来る。

別に、この変化動詞は、変化の種類によって二つに下位区分することが出来る。その一つは変化にむかっている途中なら、いつでもその動詞の語法的な意味の変化とみとめられるタイプ(3)と、もう一つは、それがみとめられないタイプ、すなわち、その変化の完成点が多いタイプ(3)と、その変化の完成点の一つしかないタイプである(1、2)。これらの区別については第三節の 3) 하고 있다 hago-itta の所で図を用いて説明する。

これらの動詞(1、2、3)は、ともに変化の完成点にむかっていく過程を持続相で表し、変化の完成した後の状態を積極的に ~해 있다 hae-itta の形で表す。

3 ~한다 handa しか持たない動詞 (～하고있다 hago-itta、해 있다 hae-itta が現れにくい動詞)

1) 결혼하다 (結婚する)、中退하다 (中退する)、졸업하다 (卒業하다)、
成功하다 (成功する)、실패하다 (失敗する)、합격하다 (合格する)、
病死하다 (病死する) など。

2) (시간이) 걸리다 [(時間が)かかる]、(비용이) 들다 [(費用が)かか
る]、어울리다 (似合う) など。

これらの動詞は、アスペクトを持たない動詞である。これはあくまでも基本的な意味においてであって、複数主語のくりかえしの場合は ~하고 있다 hago-itta の形を取ることが出来る。

◦ 요사이는 남녀대학생들이 아무 거리낌없이 결혼하고 있다.

このころは大学生が平気で結婚している。

1)のグループは、社会的な変化動詞で、2)のグループは状態動詞として小分けすることが出来る。

この類の動詞は、くりかえしあるいは主体の傾向を表す用法を例外として、アスペクトの基本的な意味の対立においては「持続相」と「結果相」をもっていないので(アスペクチュアルな形の対立をもっていないので)、アスペクトをもっていないと規定する。

しかし、1)の動詞の場合、主体の社会的な変化の結果の状態を表せないかと言えば、そうでもない。この場合は単純相過去形を取って、すなわち、単純相過去形のペルフェクト的な意味を使って、表現することが出来る。

◦ 그 사람은 결혼했어.

彼は結婚しているよ。

単純相過去形のペルフェクト的な意味については三節の2)でくわしく述べる。

第三節 韓国語のアスペクトの形の基本的な意味

1 한다 handa (単純相現在未来形)

単純相現在未来形 ~한다 handa は、持続相 ~하고 있다 hago-itta、結果相 ~해 있다 hae-itta が積極的に mark されている意味を表すのに対して、unmarked である。現在の場合は Imperfective にならざるを得ないが、未来になったら Perfective ⁽⁴⁾ である。

- 1) 그녀가 스스럼없이 웃어보이며 물었다。(中略) ‘미쓰박을 만나기 위해 또 나옵니다。’ (아베21)

彼女が心安くわらいながら、たずねた。(中略)「ミス朴に会うためにまた出てきます。」

- 2) 「걸렸을 때는?」「모든 책임은 내가진다。」(우상 361)

‘もし見つけられた時は?’ ‘すべての責任は私が取る。’

以上、未来の例文である。この場合、アスペクト的には Perfective である。

- 3) ~ ‘실은 저 여자 올해 꼭 오십하나라나요。(中略) ~조 아래 메실이라는 데 살지요。’

~実は、あの方は今年ちょうど51歳だそうです。(中略) ~あの下メシルと言う所にすんでいます。

- 4) 「내가 다 안다。」 객식구매문에 느이들 가정이 화목하지 못한걸, 모르지 않는다。」(여름88)

「私は知っている。」 食客のせいで君の家庭がなごやかでないのだ。

- 5) 「영희는 지금 어디있니?」「문앞에서 신발 신어。」

「ヨンヒは今どこ?」「戸の前で靴をはいている(ところ)よ。」

- 6) 「아! 빠라가 떨어진다!」 주우려가자!」

「ああ! ビラがおちている。(おちつつある) 拾いに行こう!」

- 7) ‘옆 사람 일어난다。 빨리 앉아’。(電車の中で横に立っている)

友達に囁く) ‘ああ、たちあがっている! (=たちあがりつつある)
はやくすわれ。”

8) 「애 애비야 어딜 자꾸 가니?」

「父ちゃん今どこまで行くの?」

以上は ~한다 handa の現在 Imperfective の用法である。このように韓国語動詞の動き動詞は現在の主体の動きの継続を、この ~한다 handa の形を取って表すことが出来るし(例文3、4、5)、変化動詞の場合は、4)のグループのような過程性がない動詞をのぞいて、現在の主体の変化にむかっていく過程を表すことが出来る(例文6、7、8)。この場合は ~한다 handa のかわりに持続相の形 ~하고 있다 hago-itta を取っても同じ意味になる。

このように韓国語の ~한다 handa の形は、アスペクト的に未来の場合は Perfective の用法をもっているし、現在の場合は Imperfective の用法で使われている。

2 ~했다 haetta (単純相過去形)

単純相過去形 ~했다 haetta の基本的なテンス的意味は、過去である。アスペクト的には基本的に Perfective の意味をもっていて、動き動詞は、その動きを一まとまりとして、変化動詞はその変化を一まとまりとして表す。

9) ‘가친이 계시죠. 우리 아버지 말입니다’ 하고는 ㅎㅎㅎ……허탈하게 웃었다。(同行407)

‘父親がいます。私のおやじを言っています。’ と言ってハハハ……とぼんやり笑った。

10) 「애기가 밖에서 혼자 놀고 있기에 데리고 들어왔습니다。」(아베46)

「こどもが外で一人であそんでいるので、連れて来ました。」

単純相過去形 ~했다 haetta に Imperfective の用法もあると 서정수 Söchöng Soo (1978, 한글 177) に指摘されているが、それが基本的な意味であるかどうかは、はっきりしない。私の集めた資料には、この Imperfective の用例がなかったので、断定は下せないが、動き自動詞、動き他動詞の場合はこの用法があると考えられる。

11) 나는 그 때 한창 술을 마셨다. (서 정수 1978)

私はその時さかんにお酒をのんでいた。

12) 「어제 9시에 뭐 했니?」 「공부했어.」

「昨日九時に何をしてたの?」 「勉強してたよ」

12)の例文は私が実際に留学生会館に住んでいる韓国人留学生10人に質問した結果、9人は ~했다 haetta の形で、1人だけが ~하고 있다 hago-itta の形で答えた。

しかし、この Imperfective の用法は、動き動詞の関係維持動詞と変化動詞には適用されない。

ここでは ~했다 haetta を単純相過去形と名付けたが、その時の過去と言う意味は、現在(発話の瞬間)以前をさしている。直前の過去の動作や変化でも、現在に結果が残っていても、いなくても、この形(~했다 haetta)で表すことが出来る。

Perfective の意味 ~했다 haetta の意味は、なんらかの点で現在とむすびついているか、いないかによって、また二つの変種 (Variant) に分かれる。

(1) ⁽⁵⁾ペルフェクト (Perfect) 的な過去

ペルフェクト的な過去は過去形の独立の意味でなく、アクチュアル (actual) な過去の意味の変種であると認められる。これは、発話の瞬間以前に起った動きや変化がなんらかの点で現在とむすびついていると言うニュアンスをもっている。このニュアンスを持たない単なるアクチュアルな過去 (アオリスト aorist 的な過去) とは、この点で対立している。

- 13) 「항일운동을 하신전 사실입니다만, 결과는 달라졌습니다。」(외 등 300)

「抗日運動をやったのは事実ですが、結果は変わりました。」

- 14) 「애비가 왔구나! 에미야 어서 밥차려라!」(高靈341)

「父ちゃんが来た! 嫁ちゃん、はやく食事のしたくをして!」

- 15) 「선생님, 2페이지 전부 다 썼어요。」

「先生、この2ページ、もう書きました。」

このペルフェクト的な意味の場合の ~했다 haetta は、変化動詞の場合の ~해 있다 hae-itta の領域と似ているが、それぞれの表す重点が別にある。ペルフェクト的な過去の意味の重点は、変化自体（話した瞬間より前のそれぞれの変化動詞の語的な意味の変化）にあるし、~해 있다 hae-itta の場合は、変化の結果、生じた現在の状態に重点がある。

- 결과는 달라졌습니다。

結果は変わりました。

- 결과는 달라져 있습니다。

結果は変わっています。

(2) アオリスト (aorist) 的な過去

単純相過去形は、前で挙げたようなペルフェクト的なニュアンスを持たず「現在から相対的に切り離された過去の特定の一つの時間に実現した動きや変化を表すことが出来る。

- 16) 「토미야 말해봐라 뭘 아는가?」

「형제가 싸웠다。」(아베 72)

「トミ、言ってみて、何を知ってるか?」

「兄弟が争った。」

- 17) 빼기가 엉뚱한 이야기를 꺼내놓기 시작했다。(中略)「결국 찾아내는데 성공했어。그때 의심촌은 병석에 있더군。」(추억 249)
スエギが予想外の話をだしはじめた。(中略)「結局見つけるのに成功

したよ。その時、おじさんは病気だった。」

3 ~하고 있다 hago-itta (持続相現在未来形)

持続相現在未来形 ~하고 있다 hago-itta は、テンズ的に現在・未来であるし、アスペクト的には、積極的に動作の持続中であることを表す持続相である。そして、動作の持続中であるか、あるいは、一まとまりの動作であるかが、mark されていない ~한다 handa (単純相) と対立している。

この ~하고 있다 hago-itta の意味を動詞別に分けて考えて見ると、動き動詞の場合、動き自動詞と他動詞は主体の動きの持続の局面を表す。これに対して、関係維持動詞は主体の客体に動かしている局面と、その結果生じた客体との関係を維持する局面との、両方を表すことが出来る。いずれを実現するかは、場面・文脈による。

18) 「그래 안양에서 아파트를 전세내어 살고 있어.~」(꿈 26)

「ああ、安養のアパートで暮らしているよ。」

19) 다른 사람들은 젓가락으로 술상을 치고 있다.(어 13)

他の客たちは箸でテーブルを叩いている。

20) 그러자 어머니가 다시 읊조리기 시작한다. 목을 길게 빼고 있다.(어 13)

やがてまた、ふたたび母が愚痴をこぼしはじめた。長々と首を伸している。

18)、19)は動き自・他動詞で、主体の動きの継続を表している。この場合は単純相 ~한다 handa の形におきかえられる。20)の関係維持動詞の場合は、主体が主体の一部である客体のある関係まで動かして、それを維持している局面を表している。この場合は、単純相 ~한다 handa におきかえることが出来ない。なぜなら、関係維持動詞が ~한다 handa の形を取ると主体が客体を動かしているところまでの領域をカバーするが、維

持する局面までは及ばないからである。

変化動詞の場合は、～하고 있다 hago-itta の形を取って変化の完成までの過程を表す。

- 21) 「어무이가 쌀가루를 가지고 안오나 기분이 좋아서 덩실덩실 춤추며 오고 있데이。」(어 82)

「お母ちゃんが米袋を担いで来るじゃないか。上機嫌で、ゆらゆら踊りながら帰って来るところだぞ。」(＝来つつあるぞ)

持続相現在未来形 ～하고 있다 hago-itta の未来の例は、私の集めた資料にはなかったので断定は下せないが、次の例文を作ることが出来る。

- 22) 「내일 열시에는 약속이 있니?」「나는 내일 열시쯤에는 한양 테니스클럽에서 테니스치고 있어。 9시30분부터 10시30분까지는 레슨이거든. 그 때쯤 테니스코트에 와 줄래?」

「あした10時に約束があるの?」「私はあすの10時ごろにはハンヤンテニスクラブでテニスをやっているわ。9時30分から10時30分まではレッスンだから。そのころテニスコートに来てくださる?」

4 ～하고 있었다 hago-issötta (持続相過去形)

この形は ～하고 있다 hago-itta の過去形で、アスペクト的には ～하고 있다 hago-itta ～と同じように Imperfective である。

- 23) 대리하고 과장사이를 멋대로 넘나들면서 진선배와 조선배가 다투고 있었다。(꿈 26)

代理と課長の間を好き勝手に行ったり来たりしながら、陳先輩と趙先輩とは言い争っていた。

- 24) 우리들 세사람은 각각 다른 유형의 음모를 준비해 놓고 홀연히 출현할 누렁이를 기다리고 있었다。(뎃 10)

私の三人はおのおのの形の異なる陰謀を企てながら、不意に出現するはずのシェパードを待ちうけていた。

25) 한 사람은 일본옷을 입었는데 목에는 붕대를 감고 있었다.

一人は和服で、首に繃帯を巻いていた。

23)、24)は動き動詞の中で動き自動詞と他動詞の例である。これらは主体の動きの継続である。25)は関係維持動詞で主体が客体を動かして、ある関係に入った後、それを維持している局面を表している。関係維持動詞の場合、主体が客体を動かしている局面の例文が見つからなかった。しかし、次のような文をつくる事が出来る。

◦ 목에 천천히 붕대를 감고 있었다.

首にゆっくり繃帯を巻いていた。

26) 창문으로 내다보니 군인이 우리집으로 오고 있었다.

窓をとおして見ると、軍人が私の家に来つつあった。

27) 과부도 가게를 막 단을 요랑이었던지 하품을 끄며, 앉았던 자리에서 일어서고 있었다. (馬 156)

未亡人も店をしめようとしたのか、あくびを止めながら、すわった席から立ち上がっていた。(=立ち上がりつつあった)

28) 소리는 간헐적으로 끊어지곤 하면서 점점 가까와지고 있었다.

(뎃 2)

声は間歇的に途切れたりしながら、いよいよ近づきつつあった。

29) 부산발××열차가 당역에 도착하고 있습니다. 서울행 손님은

잃어버리는 물건이 없도록 승차준비를 해 주시기 바랍니다.

부산発××列車が当駅に到着しつつあります。ソウル行きのお客様は忘れものないようにご乗車お願い致します。

以上は変化動詞の例である。

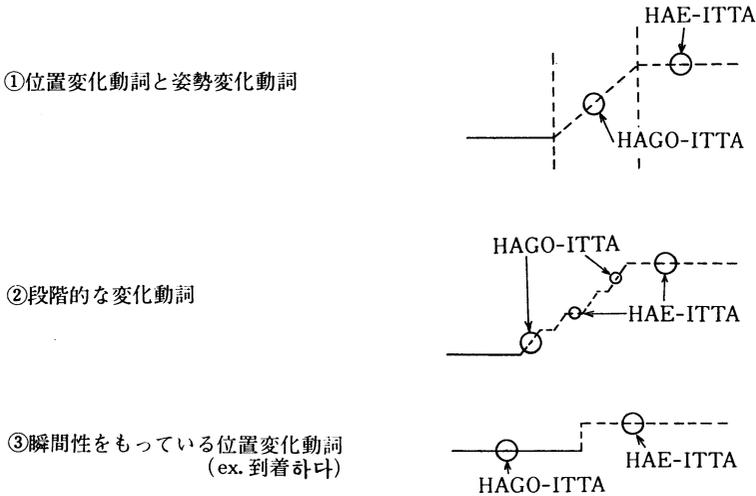
26)は位置変化動詞で、変化が始まって終るまでの過程を持續相で表している。

27)は姿勢変化動詞で、この持續相過去形の形を取って、位置変化動詞と同じように過去における変化が始まって終るまでの過程を表している。

28)は段階的な変化動詞の例である。この類の動詞は徐々に変化する段階で、どの地点でも持続相で表すことが出来るし、また、結果相でも言える。持続相で表す時は、変化の途中であることを表す時は、そのへんまでの変化の結果を表す。

29)はアスペクト的な特徴を説明するために現在形の例文を示したが、過去形の場合も成立する。ここで使われる動詞は位置変化動詞の仲間であるが、その動詞の語意的な意味において瞬間性をもっている特殊な動詞である。しかし、持続相の形を取ることによって、その予備動作を表すことが出来る。この変化動詞の色々なタイプを図式化して見ると次のようになる。

図2



5 ~해 있다 hae-itta (結果相現在未来形)

この形はテンス的には現在あるいは未来であるし、アスペクト的には主体の変化の結果を表す結果相である。そこで、この結果相をもつ動詞は変化動詞に限られる。

30) 구장이 혈기 좋은 얼굴로 허물웃고 서 있다. (파라암 86)

クチャンが血氣のいい顔で笑いながら立っている。

31) 불빛을 받아 얼굴이 주황으로 물들어 있다. (파라암 93)

光で顔が橙色に色づいている。

32) 「이 그늘엔 나뭇잎이 아직 젖어 있어.~」

「この陰、木の葉がまだ濡れてるわ。~」

この結果相現在未来形 ~해 있다 hae-itta は、単純相過去形 ~했다 haetta のペルフェク的な意味のさししめす領域と同じであるが、それぞれのニュアンスは違う。結果相現在未来形 해 있다 hae-itta の形を取る場合は、変化の結果の現在の状態に重点があるし、単純相過去形の場合はその変化自体に重点があって、現在の状態は二次的である。

6 ~해 있었다 hae-issötta (結果相過去形)

この形はテンス的に過去であるし、アスペクト的には結果相である。この形をもつ動詞も、~해 있다 hae-itta をもつ動詞と同じように、主体の変化を表す変化動詞である。

33) 누나와 분선이가 쪽마루에 걸터앉아 있었다.

姉と妹の粉仙とは縁側に腰を掛けていた。

34) 다리 바닥에는 군데군데 구멍이 숭숭 뚫려 있다. (어 4)

橋板にはところどころぼっかりと穴があいていた。

注

- (1) 奥田靖雄 (1977, 1978) 「アスペクトの研究をめぐって」と言う題で『ことばの研究・序説』奥田靖雄 (1984) に入っている。
- (2) 文法的な意味・機能において、同類の形態論的な形を体系のもとにまとめあげる、一般的な・本質的な特徴。
- (3) ある動詞の語的にさししめす動作や変化を、割り込んだ形で表すか、あるいは、ひとまとまりのものとして表すかの対立を、ここでは基本的な意味においてのアスペクトと言っている。これに対して韓国語の動詞が持続相の形を取っ

て、くりかえし、単なる状態などの意味にもなるが、これはアスペクトの派生的な意味とみなす。

- (4) ここで言う Perfective は、動作あるいは変化を始まりから終わりまで一まとまりのものとして表すことである。これに対して、Imperfective は動作あるいは変化を割り込んだ形で表すことである。
- (5) 鈴木重幸、1979「現代日本語の動詞のテンス」の43ページ参照。この論文は言語学研究会編『言語の研究』に入っている。

〔主な参考文献〕

- (1) 奥田靖雄「アスペクトの研究をめぐって——金田一的段階——」宮城教育大学、『国語国文』8、1977。
- (2) 奥田靖雄「アスペクトの研究をめぐって(中下)」『教育国語』53、54、1978。
- (3) 鈴木重幸『日本語文法・形態論』むぎ書房、1972。
- (4) 鈴木重幸「現代日本語の動詞のテンス」『言語の研究』むぎ書房、1979。
- (5) 鈴木重幸「形態論的なカテゴリーとしてのアスペクトについて」『金田一春彦古稀記念論文集Ⅰ』1983。
- (6) 金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房、1976。
- (7) 松本泰文編『日本語研究の方法』むぎ書房、1978。
- (8) 김 차 군 「～어있 と ～고있 の意味」『言語』創刊号。
- (9) 김 차 군 「있다の意味研究」『言語学』第五号。
- (10) 남기심『国語文法の時制問題に関する研究』搭出版社、1978。
- (11) 서정수「韓日両言語の時相」『한글』177。
- (12) 이길록『国語文法研究』日新社、1983。
- (13) 최동권「現代国語動詞の動作相に関する研究」1983。
- (14) 최익규「韓国語時相に関する研究」、1975。
- (15) BERNARD, COMRIE, *ASPECT*, Cambridge University PRESS, 1976。

(大学院後期課程学生)